

花木の剪定(落葉期12月～2月)

正月を前に、12月から2月は落葉樹の剪定適期です。

剪定はこまめに行わないと、樹高が高くなりすぎたり樹形が乱れたりします。
 また、枝が混み合っただり風通しが悪くなり病気や害虫発生の原因ともなります。
 しかし、この時期にはほとんどの花木に花芽ができていることにも注意すべきです。
 花が咲かないわけの一つとして、冬にできている花芽を切り落としてしまうケースが、考えられます。
 この時期、すでに花芽ができて旧枝咲と、これから花芽ができる新枝咲とがあります。
 また、枝のどの位置に花芽がつくのかの確認も大切です。

● 旧枝咲と新枝咲の開花・花芽分化・剪定の時期

I. 冬すでに花芽がついている(旧枝咲).....なるべく花芽を残す

■ 剪定 ■ 開花 ■ 花芽分化～花芽存在期

例	今年												来年																	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月						
ハナミズキ	■				■		■												■				■				■			

* 旧枝咲をハナミズキを例に見てみますと、今年4～5月に開花した後、7月には花芽ができ始めています。その花芽が冬を越し、来年の春に開花します。

II. 冬に花芽がない(新枝咲)....花芽を気にせずに切れる。

例	今年												来年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
ムクゲ	■				■												■				■				■			

* 新枝咲をムクゲを例に見てみますと、今年7～10月に開花した後、花芽は来年春先から伸びる新梢に5月からつき、7月頃には開花します。冬に花芽はありません。

● 花芽のつき方と剪定のポイント

樹形や枝ぶりを整えるために「不要枝」を切ります。

不要枝・・・枯れ枝、混み枝、絡み枝、ふところ枝、立ち枝、ひこばえ、徒長枝など

I. 冬すでに花芽がついている(旧枝咲)・・・なるべく花芽を残す

花芽の位置	花芽のつき方	例	剪定のポイント
枝の上部についている。	枝上部に複数の花芽がある。	ハナミズキ、ナツツバキなど	不要な枝だけ間引いて花芽のある枝をできるだけ残す。
枝の先端についている。	花芽は枝の先端に1～2個しかない。	アジサイ、モクレン、スモークツリーなど	花芽のある枝はできるだけ残す。
枝の全体についている。	枝の先端から元まで花芽がある。	ユキヤナギ、ヤマブキ、ウメなど	枝の先端から元まで花芽があるので、どこで切ってもよい。

II. 冬に花芽がない(新枝咲)・・・花芽を気にせずに切れる。

花芽の位置	花芽のつき方	例	剪定のポイント
来春伸びる枝につく	春から伸びる新梢に花芽ができる。	ムクゲ、サルスベリ、ノイゼンカズラなど	冬は花芽がなくどこでも切れるが新芽の出る3月が適期